

クマに注意！

－思わぬ事故をさけよう－



ツキノワグマとヒグマは日本を代表する動物です。アニメに出てくるクマはユーモラスでやさしそうです。でも、本物のクマは力が強く、突然出会おうと攻撃することもあります。この冊子では、クマに会わないための工夫、クマに出会ったときの注意事項を紹介します。



環境省

クマはあぶない動物！

クマ（ツキノワグマとヒグマ）は、するどいつメと大きな歯を持っていて、時速 40 キロメートルで走ることもできます。突然の出会いで、引っかかりたり押し倒されたりすると大けがをします。近くにクマの生息が確認されている地域では次のことに注意しましょう。

⚠️ 一人で行動しないで、集団で登下校する。

⚠️ クマの生息する場所に近づかない。



たとえば・・・このような事故がありました。

平成 13 年 6 月：岩手県での事例

→中学生が自転車ごと押し倒され負傷

平成 18 年 9 月：長野県での事例

→通学路わきから突然出てきたクマに会い、中学生が負傷

通学路や山でのクマとの出会いをさけるために！！

クマとの出会いを防ぐためには、クマについて知ることが重要です。
次のような点に注意してください。

クマのことを知る

- クマの生態、行動などをよく知りましょう。
- 地域の自然環境、野生動物に関心を持ちましょう。

クマの出没情報に気をつける


- 出没情報のあったところにはなるべく近づかない。
- 早朝・夜間は出会う可能性が高くなるので注意しましょう。

クマに自分の存在を知らせる

- クマ鈴など音の出るもので存在を知らせましょう。
- クマに出会う恐れのあるところでは走るのはさけましょう。

クマの隠れ場所になりそうなところに注意する


- 見通しの悪いところや沢など狭いところでは注意しましょう。
- 山とつながっている林や川沿いのやぶでも注意しましょう。

 このような場所ではクマとの出会いを避けるよう、特に注意しましょう。




もしクマに出会ったら！！


注意していても、クマに出会ってしまうかもしれません。
もしクマに出会ったら次のように行動してください。

 遠くにクマがいることに気がついたとき

- 落ち着いてその場から離れましょう。
- クマをおどろかすので、大声を出したり、走って逃げるのはやめましょう。写真をとるためフラッシュを使うのも止めましょう。

 近くにクマがいることに気がついたとき

- 落ち着いてゆっくりとその場から離れましょう。その際、クマに背を向けずに、クマを見ながら、ゆっくり落ち着いて後退してください。

 すぐ近くで出会ったとき

- あわてた人の急な動作で驚いて、攻撃してくることがあるので、冷静に、あわてず、クマが立ち去ってからその場を離れましょう。
- 突発的におそわれたら、両腕で顔や頭をガードして、大ケガを避けましょう。



クマをおびきよせないために！！

クマによる被害を防ぐには、クマを人里に近づかせないことが重要です。
地域で協力して次のようなことを行うことが大事です。

クマが利用しにくい環境を作る

- 通学路沿いの森で、見通しの悪い場所の下刈りをする。
- 隠れ家となりそうな川沿いのやぶを除去する。

クマの好物を取り除く

- 収穫後の農産物、家庭の生ごみは野外に放置しない。
- 庭先のカキ、クリなどは放置しないで早めに取り取る。
- 家の周囲でハチの巣を見つけたらなるべく早く取り去る。

餌付けをしない・ゴミを放置しない

- 人がおいしいものはクマもおいしい。
- クマを食品や生ごみでおびきよせない。
- キャンプ場や山林に生ごみなどを放置しない。



キャンプ場でのゴミ放置



遠足でのゴミ投げ捨て



家庭ゴミの放置



果実の放置

クマの生息地の近くでエサとなる家庭ゴミを捨てるなど、人のちょっとした不注意、不適切な行動がクマをおびきよせ、人身被害の発生など思わぬ結果をもたらすこととなります。十分注意しましょう。

クマの分布域

日本にはヒグマとツキノワグマが生息しています。ヒグマは北海道に、ツキノワグマは本州と四国の山地を生息地としています。昔は九州にもツキノワグマが生息していましたが、50年ほど前から生息は確認されていません。

ヒグマ : 北海道の約半分の地域に生息しています。森林を主な生息地としますが、木の少ない原野にも出てくる可能性があります。

ツキノワグマ : 落葉広葉樹林のあるところを主な生息地としています。東北地方や中部地方では6割以上の地域に、関東、近畿、中国地方では3割程度の地域に、四国は限られた地域にだけ生息しています。



クマの生息する地域 (緑色の範囲)

第6回自然環境保全基礎調査(2004)